

帰国報告書

東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻修士2年
森野 雄貴

派遣先大学：École polytechnique fédérale de Lausanne
派遣期間：2016/2/20~2017/1/31

留学するまで

0. 留学の決意

私は学部入学以来ずっと留学してみたいと思っていたものの、なかなか機会に恵まれませんでしたが、しかし大学院入学後、友人に誘われOICEの留学報告会に参加し、条件がTOEFLのスコアをとることであり、比較的直前でも申し込めることを発見し留学することを決意しました。モチベーションにもつながりますし、留学を検討されている方はこの留学報告会に参加することをお勧めします。

1. 留学先の派遣校の決定

これによって全学を通してか、学部を通してか、が決定します。派遣校にもよるとは思いますが、前者は準備に合計で一年、後者は半年ほどかかるという印象があります。私の場合は工学部を通した留学でしたので後者です。

留学先で要求されるTOEFL/IELTSのスコアを取得

これは逐一、派遣先の大学でのwebサイトでチェックする必要があります。基本的に要求スコアは学部か院生か、そして英語圏か非英語圏かどうかで点数が変動していました。目安は基本的に東大の要求スコアであるTOEFL ibt 79以上、英語圏かつ大学院生なら90程度必要という形でした。また大学によっては合計点のほかセクションごとのミニマムスコアが設定されていた記憶があります。

ちなみに私は大学入学以後英語にまともに触れた記憶がなく（入学以前も英語の勉強はそんなにすることがなかったので余計に）スピーキングが含まれるTOEFL ibtの対策には非常に苦労しました。基本的にリスニング、スピーキングといったものは短期的に伸ばすのが難しいと思いますので時間をかけた対策をお勧めします。その努力自体が留学前から包括的な、実戦で使える英語力を底上げします。短期的に試験で点数を取るための勉強（ライティング、リーディ

ング)により私はスコアをクリアしたのですが、留学開始当初はスピーキングやリスニングができず、対人のコミュニケーションや授業で非常に苦労しました。

2. 学内選考後にアプリケーションを派遣先のwebサイトから送信

学内で面接があり(英語)、通るとアプリケーションを自分で申請するよう指示があったと思います。こちらは面接後に丁寧に対応してもらえそうです。2015年10月頭にオンラインアプリケーションで申し込みました。

3. 奨学金・ビザ等現地で生活するための調整

これらの情報は自身で集める必要があります。派遣先によっては非常に煩雑になる場合もあると思いますので前もって準備するのが吉です。私の場合は同じ学校に派遣された同期があり、様々な面で助けていただきました。スイスの場合は一年間であればビザ申請は必要ありませんでした。(2016年当時。現地でResidence permitを取得すれば問題ありませんでした。)

また奨学金は国際交流課からJASSOを案内してもらえそうですが、トビタテ、業務用スーパーなど様々なものがあります。私の出発時期は特殊だった(通常だと9月出発が大半です。)ために、なかなか他の奨学金を見つけることができず、また見つけることができても募集時期に合致せず応募できないという状況に陥りました。奨学金を探すコツは派遣先を決める段階で探し出すことです。早めに探しておいて損はありません。と言うよりは早めに探し出さないと損する可能性があります。例えば私の場合だとJASSOから毎月8万円(家賃分のみしか賄えず)をもらっていたのに対し、トビタテをもらっている友人はその二倍である16万円を受け取っていました。派遣先が決まるまでなかなか留学するという実感がわからないので探す気にはなれないかもしれませんが、手遅れにならないように、留学するという気概を持った瞬間に奨学金を探し始めることをお勧めします。

保険は学校側から指定があると思います。結局一回もお世話になることはなかったのですが保険のおかげで常に安心感がありました。

留学

1. 現地での手続き

長期で滞在するにはResidence permitの取得が義務付けられているので必要書類とお金(100CHF程)を持って、自身が属するcantonにあるpopulation officeで手続きをします。何度も繰り返してますが、私の出発時期が特殊だったために、学校からの秋学期の証明書がその時点ではもらえず(継続の旨は伝えており許可はもらっていましたが正式な証明書の発行時期が4

月以降と言われました）、一年いるということの証明が不可能でした。しかし受け取りまでに4ヶ月かかったもののなぜか1年分の滞在許可を頂きました。

2. 学校での授業

こちらの大学（一般的なヨーロッパの大学）では日本と違って修士は研究ではなく授業がメインです。こちらでは研究室に入って研究をするのは基本的に博士から、といった背景があります。実際に他国からの交換留学生は修士であっても主に授業受講がメインで来てる方が非常に多いです。たとえ修士であっても研究室に所属せず授業をメインにして留学するというのも一つの選択肢になってくると思います。

私の所属していたManagement of Technologyの授業の内容に関しては東大の技術経営戦略専攻で受けられる授業の英語版というイメージです。授業はしっかり設計されており、きちっとやれば自分のできる幅が広がると感じました。そして授業にもよりますがEPFLの授業は概してハードだと見受けられました。交換留学生は取れる授業の幅（学科を超えることもできる）も広いので興味ベースで様々な授業を受講できます。私は上記の学科の授業に加えFinancial Engineeringの授業も受講していました。また演習が充実しており、多国籍な生徒と協力して課題をすることが求められます。個人的な経験ですが、授業によってはフランス語圏出身の学生ばかりとグループを組むことになり、英語で行われる授業においてもグループワークにおいて英語を話してくれず苦労したことがありました。インターナショナルな環境であるとはいえ、フランス語圏（スイス、フランス、ルクセンブルク、ベルギー、カナダのケベック、北アフリカなど）出身の学生が多いためある程度フランス語ができる方が望ましい気がします。

3. 英語/フランス語の語学の授業

Language centerで一言語につき一つ講座を受講できます。このLanguage centerでは言語がCEFR(The Common European Framework of Reference for Languages)でレベル分けされていました。日本で言語を学ぶプロセスと違うのは面白い発見でした。私は英語とフランス語を両方取っていました。また休み期間の集中授業も存在します。冬季は難なく取れましたが私はnew incoming studentsに含まれなかったため夏季の集中授業はとれませんでした。友人から夏季は冬季とは違い期間が長く学生にmasterやbachelorが多い（冬季はDoctorが多い）ためフランス語の向上と友人作りに非常に良いと聞いています。

4. タンデム（言語交換）

フランス語の勉強（特にスピーキング・リスニング）のため、タンデム（ここではlanguage exchangeを指す）といった制度を使っていました。幸い日本語に興味のある現地の学生をたくさん発見できたため、探す苦労というものはありませんでした。しかし、タンデム中に何をするかという設計があまりうまくできなかったこともあり、自身のフランス語の上達にあまり寄

与しなかったと感じています。英語に比べ必要性が薄いのでフランス語のモチベーションが常には保たれなかったのも要因です。またお互い学びたい言語のレベルが低かったため、英語を介して説明していたのですが、英語を話してる時間の方が長いという状況に陥りがちでした。後期は特に英語を封印するという気概を持って臨んでいました。かなり親密になれた友人の何人かはこのタンデムからでしたし、個人的にはとても良かったと感じています。

5. 余暇

ESN(Erasmus Student Network)という学生団体があり交換留学生向けのイベントを企画しています。これにより友人作りが一層簡単になったと感じています。またスポーツセンターでスポーツのクラスも受講できます。

私は仲良くなった友達と飲みに行ったりスイス国内外を旅行したりスキーをしたりハイキングをしたりと、余暇を楽しみました。

6. 寮生活

私はFMEL Jordilsという大学の寮に住んでいました。寮を出てすぐのバス停からバスで学校まで10分、自転車で15分程度、家賃は690CHFでした。バスの本数が少ないこと、家賃が他のFMELに比べ高い（所感ですが一月150CHFほどの差がある）こと、街から遠いこと、定期代が高くつくこと（エリアが微妙に違うので割高になる）が難点でした。夜に街に出ていると帰りは結局タクシー(Uberだと安上がりです)を使う羽目になることが多く、これと定期代を含めると割に合わない物件だと感じていました。フラットでは私の他に4人とキッチン・バスルームをシェアしていました。他人と初めて一緒に住んだということもあり、その上で問題もありましたが、最終的に解決できました。背景が違う者との共生は学べることが多く、寮生活は非常に良い経験だったと思っています。

7. 生活など

物価が高いのは非常に有名だと思いますが実際にその通りです。食堂でも一食8CHFから、スーパーでサンドイッチ一つ買っても5~6CHFは下らないなど、とにかくお金がかかるので自炊が必然と多くなると思います。私はご飯を一度に大量に作り、一週間昼も夜も同じものを食べ続けるという作戦を取っていました。食へのこだわりさえ捨てることさえできれば、値段も安くなるし料理に割く時間も減るしで一石二鳥です。

電車や街中の交通機関もすべてアプリ一つでチケットを買うことができ、非常に便利です。一方ですべてのコストが高いことや日曜日に店が開いていないなど不便を感じるシーンも多々ありました。お金さえあれば解決することは多いので、奨学金をしっかりと探しましょう。

留学を終えて

目的の一つであった英語力は当初のレベルを考えると非常に伸びたと感じています。フランス語に関しては限定的ですが簡単になら扱えるようになりました。

またあまり留学前には予期していなかったのですが、環境適応、異文化理解などソフトな面での成長もしたと感じています。特定の状況で相手がどうしてこういう行動に出るのかということが日本の文化をベースに考えると全く理解できず、すれ違いが生じ、喧嘩になることもありましたが、留学中に相手の考えを偏見なしに受け入れることができるようになったのは私が留学中に得た物の中で一番の収穫でした。

私にとって、この留学はたくさんの学びに加え、楽しいことあり、辛いことありで自身の人生において大変良い経験になったと思います。しかし、反省点・後悔も多数あり、もう半年残って留学生活を続けたかったというのが本音です。しかしこれらの反省点を日本での生活に活かし、今後の学業に打ち込みたいと思います。

最後に、私の留学に快く承諾してくださった縄田和満教授、留学における様々な手続きのサポートをしてくださった丸瀧さん、そして留学を通してお世話になった方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。